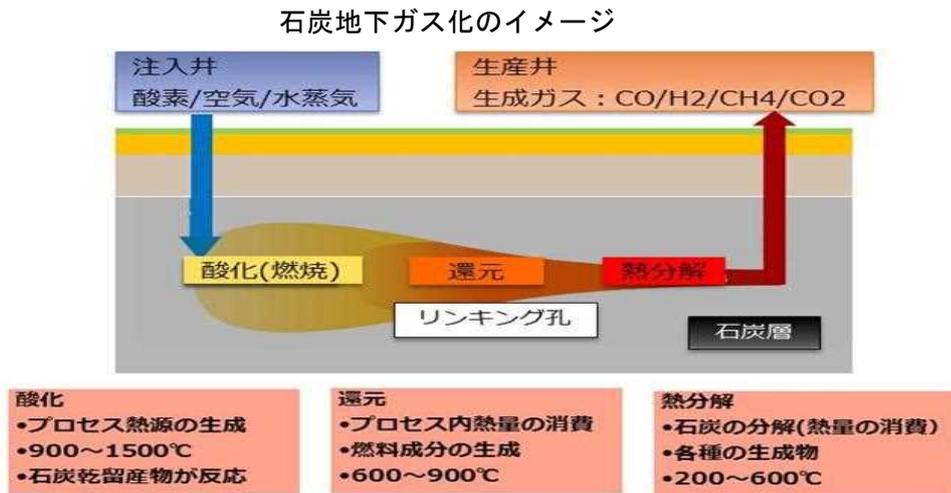


5. 最近の石炭に係る動きについて

(1) 石炭地下ガス化（UCG）

■ 現在、室蘭工業大学、NPO法人地下資源イノベーションネットワークなどにより科学研究費助成事業（文部科学省科学研究費補助金）による石炭地下ガス化（UCG）の技術開発が三笠市などで進められている。

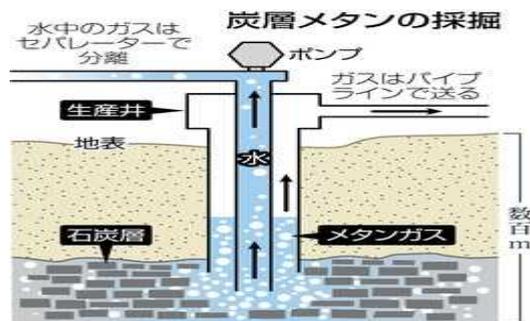
○石炭地下ガス化（UCG）とは
 地下の石炭層をその場で燃やすことで熱を発生させ、その熱で周囲の石炭をガス化して可燃性ガスを生成する技術。地下の石炭層をガス化炉として利用。



(2) 炭層メタンガス（CBM）

■ 夕張市では平成28年9月石炭層に含まれるとされる炭層メタンガス（CBM）の地質条件や炭層の特性（ガス包蔵量やガス浸透率など）把握のため国内で初めて試掘が行われた。平成29年12月に炭層メタンガスの生産テストが実施され、良質なガスの採取に成功した。

○CBMとは
 CBMは通常、その90～95%以上がメタンであり、ガス発電の燃料、重油に代わるボイラ燃料、ガソリンや軽油に代わる自動車燃料としての利用のほか、水素やDME（ジメチルエーテル）次世代エネルギーの原材料としても利用可能。
 CBMの開発は地表からのボーリング（約数百～千メートル）により行われ、条件によっては1本の孔井から1日数千m³のCBM回収が可能。



(3) 釧路火力発電所

■ 釧路市では国内で唯一の坑内掘炭鉱である釧路コールマインの石炭を活用したエネルギーの地産地消を進めるバイオマス混焼の火力発電所が稼働しています。

釧路火力発電所の概要

事業所所在地	……釧路市興津町1丁目14番
発電容量	……11万2千kw
発電燃料	……石炭（約20～25万トン／年）＋木質バイオマス混焼
運転開始	……令和2年12月